

年間授業計画

科 目 名	財務会計Ⅱ	単位数	3 単位	学年・学科	2 学年 会計科	展 開	必 修
教科書名	教科書番号（出版社） 教科書名 745（TAC） 財務会計Ⅱ			副教材名	日商簿記2級統一試験団体試験模擬問題集2級（とうほう） 全商簿記実務検定模擬試験問題集1級会計（実教出版） 全商財務会計検定論点別NEWステップアップ		
科 目 の 目 標	・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す （１）財務会計について実務的に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）企業会計に関する法規と基準及び会計処理に方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。 （３）会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習内容と進め方	・講義及び演習を中心に授業を進めます。						
学 習 の 留 意 点	（１）企業会計に関する法規と基準の改正などに随時対応して指導する。実務に即した例題を取り入れた学習活動及び会計処理の方法などについて理解し、企業の財政状態や経営成績などの把握と会計情報の活用ができるようにする。 （２）会計処理と監査に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析できることを理解し、会計情報の信頼性を確保する意識を高めることができるようにする。 （３）企業の経営判断に関する具体的な事例について企業に及ぼす影響を会計的側面から理解し、企業活動と財務会計との関連について理解を深める。						
月	単 元	具体的な学習内容		評価の観点			備考（評価項目）
				1	2	3	
4	オリエンテーション	6月までの検定取得と状況に合わせての学習 ＊検定の仕上げ学習				○	・1年次までの内容を確認し、自己理解を深めると共に、今後の教科目標を設定する。
5	第1編 財務会計の基本概念と会計基準	第1章 財務諸表の作成と表示の考え方 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際統合		○ ○ ○			・財務会計と管理会計について理解している。 ・財務報告の目的、構成要素、認識と測定について理解している。 ・資産負債アプローチと収益費用アプローチを理解している。 ・各アプローチにおける財務諸表の位置づけ、純利益と包括利益、包括利益計算書について理解している。 ・わが国の会計基準の特徴と会計基準の国際的な動きを理解している。
6	第2編 金融商品	第4章 金融商品 第5章 外貨建取引 第6章 デリバティブ取引		○	○		・金融資産・金融負債の発生と消滅の認識を理解している。 ・外貨建取引の会計処理および外貨建有価証券の会計処理を理解している。 ・デリバティブ取引・先物取引・スワップ取引・オプション取引について理解している。 ・委託販売・受託販売・未着品売買・試用販売について理解している。
7	第3編 収益と費用	第7章 様々な商品売買取引 第8章 工事契約		○ ○			・工事契約の収益認識、進捗度に応じて収益を揭示する、原価回収基準、工事収益総額・見積工事原価総額の変更について理解している。
8	第4編 有形固定資産と無形固定資産	第9章 有形固定資産 第10章 リース取引 第11章 研究開発費とソフトウェア 第12章 固定資産の減損		○ ○ ○	○		・償却資産、圧縮記帳、投資不動産について理解している。 ・リース取引の分類、所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引について理解している。 ・借手と貸手の会計処理について理解している。 ・研究開発費と会計処理、ソフトウェアについて理解している。 ・減損会計の流れや減損の兆候把握、減損損失の認識と測定について理解している。
9	第5編 固定負債	第13章 社債 第14章 退職給付会計		○	○		・社債の一連の流れについて理解している。 ・退職給付会計の一連の流れについて理解している。
10	第6編 純資産	第15章 資産除去債務 第16章 純資産 第17章 新株予約権 第18章 ストック・オプション		○ ○ ○	○		・資産除去債務の会計処理について理解している。 ・純資産の分類と株主資本の係数の変動について理解している。 ・新株予約権の一連の流れについて理解している。 ・ストック・オプションについて、権利確定日以前および確定後の会計処理について理解している。
11	第7編 税効果会計	第19章 分配可能額			○		・分配可能額、余剰金、分配可能額の計算方法について理解している。 ・税効果会計（将来減算一時差異と将来加算一時差異、将来減算一時差異および将来加算一時差異の会計処理、ヘッジ会計の税効果会計）について理解している。
12	第8編 キャッシュ・フロー計算書	第20章 税効果会計 第21章 キャッシュ・フロー計算書			○		・キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲、表示区分について理解している。 ・営業活動によるキャッシュ・フローの表示方法について理解している。
1	第9編 企業集団の会計	第22章 企業結合会計 第23章 連結財務諸表（その1） 第24章 連結財務諸表（その2） 第25章 連結財務諸表（その3）		○ ○ ○		○	・企業結合の形態・会計処理、吸収合併の会計処理について理解している。 ・連結財務諸表の作成、子会社の資産・負債の時価評価、投資と資本の相殺消去、支配獲得後の1期目の連結について理解している。 ・支配獲得までの株式の段階取得、支配獲得後の追加取得、子会社株式の一部売却について理解している。 ・連結税効果会計、連結財務諸表の作成、連結キャッシュ・フロー計算書について理解している。
2	第10編 財務諸表分析	第26章 持分法		○			・持ち分法の適用範囲、持ち分法の会計処理について理解している。
3	第11編 監査と職業会計人	第27章 財務諸表分析 第28章 会計と職業会計人		○ ○			・連結財務諸表を用いた財務諸表分析、有価証券報告書、連結財務諸表分析、四半期報告書、株価関連指標、企業価値について理解している。 ・財務諸表の開示と監査、会計法監査制度と金融商品取引法監査制度、財務諸表監査の仕組み、監査意見形成の表明、監査の品質管理、職業会計人の職務について理解している。
評価方法	（１）評価の観点については、下記のとおりとする。 （２）具体的な内容として、定期考査、単元テスト、日常の演習、問題集の取り組み状況、その他提出物、学習意欲などから評価を行います。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技能	・新しい会計基準やその処理に関する知識を身につけ、財務会計の基本概念や監査について理解している。 ・新しい会計基準に関する会計処理の技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に提供・活用することができる。					
	2. 思考・判断・表現	・新しい会計基準や財務会計の基本概念について、なぜ、そのように考えて処理を行うのかなど自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。また、その成果を会計情報の提供および活用という形で適切に表現することができる。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	・財務会計および監査について関心を持ち、その理論と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、会計情報を提供し、活用しようとする態度を身につけている。					
評価基準	1. 知識・技能	A 実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけている。 B 実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけることが概ねできている。 C 実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけることが不十分である。					
	2. 思考・判断・表現	A 財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身につけている。 B 財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力を身につけることが不十分である。 C 財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が概ね身につけている。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が身につけている。 B 適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が概ね身につけている。 C 適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が不十分である。					